



テニスを再開して ——仕事と趣味

大学を卒業し社会人2年目となる23歳の春、「久しぶりにテニスを始めてみよう。」そう思いました。

仕事をしている時間とそうでない時間の調和、「ワーク・ライフ・バランス」が唱えられる昨今、私の理想の社会人像とは、仕事に打ち込みながらも私生活では家庭や趣味で充実した生活を送り、そのどちらも相乗効果的に充実したものにしていく、というものでした。しかし、入庁1年目の当時これといった趣味もなく、また仕事では右も左もわからないことばかりで、私生活で新しいことを始めるという余裕がありませんでした。

入庁2年目を迎え、現在の業務にも少しは余裕を持てるようになったころ、学生時代に励んでいたテニスをもう一度始めてみようと思うきっかけとなる出来事がありました。それは、岐阜県庁テニス部が毎年春から夏にかけ、毎週土曜日に開催するテニススクールです。テニススクールでは、初心者から経験者まで40人ほどが参加し、ラケットの握り方やスイングの仕方など基礎的なことから、ラリーやボレーを交えた少々発展的なことまで、テニス部の方々が丁寧に教えてくださいました。久しぶりにボールを打つ感覚を思い出し、すっかりテニスにはまってしまいました。



河合 輝

岐阜県総務部職員厚生課主事

【かわい ひかる】1991年岐阜県関市生まれ。名古屋大学卒業後、2013年岐阜県庁に入庁。総務部職員厚生課に所属し、2014年現在2年目。「岐阜県庁テニス部」部員。

今では県庁テニス部とは別のテニススクールにも通い始め、週2日ほどのペースでテニスをする日々を送っています。先日はテニスを再開してから初めてとなる大会にも参加しました。結果は予選リーグ敗退でしたが、次回は勝ち進むため、さらに練習に励んでいます。

テニスを始めていちばんよかったと思うことは、目標とすることができたことです。目標ができたことでそれに向かって努力し、以前はできなかったプレーがうまくいったり、技術が向上したことを実感した時、何より試合に勝った時、とても大きな達成感を感じることができます。私生活で楽しみにする趣味ができたことにより、仕事とのメリハリもでき、テニスを始める以前とはくらべものにならないほど充実した生活を送っています。

昨年は錦織圭選手が全米オープン準優勝と大活躍しテニスブームが到来していますが、そんな錦織選手に触発され、今後は大会優勝をめざし邁進し、生涯にわたってテニスを続けていきたいと思っています。



平成26年9月 合宿でのチーム対抗戦集合写真



平成26年9月
ひるがの高原での合宿にて